

地域にはばたく市民パワー!

ところざわ倶楽部「広場」

所沢市民大学修了者の会 広報紙

2011年 4月号 (第38号)

発行責任者 加曾利 厚雄



金山緑地公園「三春の滝桜」2010.3.26 葛橋 撮影

「あなたの食が地球を変える！」 5月講演会を聴こう!

5月28日(土)、私達の身近な問題である「食」と「環境」について、「フード・マイルージ」の著者でこの考え方の普及に努められている農林水産省の中田哲也氏に直接お話を伺う機会が持てることになりました。

ご講演戴く内容・主旨等は、先生のウェブサイトにある“開設時のご挨拶”に沿ったものとのことですので、ご参考までにその一部を下欄に転載させていただきます。大変有意義な講演会ですので一般公開とし、会員以外の方々にも声をお掛けしています。多数の皆様のご参加をお待ちしています。 「地球環境に学ぶ」サークル

現在、私たちの食、また、それを支える日本の農業は、多くの課題を抱えています。危機的とさえ言える状況だと思えます。しかし、そのことに気付いている人たちは多くはありませんし、気付いていても、その状況を改善しようとして実践されている方は、さらに少数です。私たちは、毎日何か食べないと生きて行くことはできません(もともと、日本にも毎日食べられない人がいるのも事実ですが)。かくも食生活とは身近で、かつ重要なものです。そして何を食べるかは、基本的に個人の自由です。

私たちは、表面上は非常に豊かな食生活を謳歌していますが、その一方では多くの問題点を抱えています。急速な「欧米化」によって栄養バランスは崩れ、生活習慣病が増加するとともに、大量の食べ残

しなどの食品ロスを出しています。そして食生活を支えている日本の農業は、ここ20年間で生産額(農業所得)が半減するなかで高齢化が進み、耕作放棄地が増加するなど、危機的な状況にあると言えます。

これらの結果、食料自給率はカロリーベースで41%と、他国に比べても際立って低い水準にあるのです。

そして現在の私たちの食生活は、実は地球環境の資源・環境問題とも関わっているのです。

輸入に依存する私たちの食生活は、10億人を超える飢餓人口がいるこの世界の、多くの農地と水を使用することによって成り立っています。さらには、大量の輸入食材を長距離輸送する過程で、大量の二酸化炭素を排出し地球環境にも負荷を与えているのです。...

(以下省略)

講演会「郊外都市〈所沢〉は生き残れるか？」を終えて

3月12日午後3時から、廣瀬克哉法政大学教授を講師としてお招きし、新所沢東公民館において表記の講演会が開かれた。巨大地震が東日本を襲った翌日とあって、講演会は被災者への黙祷から始まった。後を絶たない余震や伝えられる被害の大きさから中止も検討されたが、所沢の元気を示そうと開催に踏み切った。減少が予想された参加者数も80人を越えた。

講演で廣瀬先生は、これまで多くの市民が「成長都市・若い都市・財政力のある都市」としてイメージしてきた我がまち「所沢市」について、その「現状と将来の見通し」を様々なデータを示して解説し、多くの課題を抱えていることを参加者に十二分に認識させた。

また、この講演は、「市政運営の基盤となる人口と財源」「市政における市民参加」などに関する全体的な状況を把握する貴重な機会となった。

先生が示された人口とその構成、とりわけ生産年齢人口が驚くほど減っていくなかで、後期高齢者人口が突出して増える推計等のデータは、人口面での成長は頭打ちになり、急激に高齢都市に向かうとともに財政面の余裕がゼロに近づいていることを示しており、所沢は既に我々のイメージどおりの「若い・財政力のある都市」ではないこと物語っている。

続いて、将来を見通して生活基盤の確保や都市基盤の更新などの新たな課題とともに、市の政策のポイントとなる「自治基本条例」「第5次総合計画」「議会

基本条例」のそれぞれにおける市民参加と地方選挙での市民の選択等を丁寧に語られた。

引き続き新しい試みのワークショップが行なわれた。参加者は講演直後の質問の代わりに、グループに分かれ、そこで各々が先生から聴いた内容への疑問やもっと聴きたいこと、確かめたいこと、その他を披露してグループとして質問を取りまとめた。全グループのまとめを持ち寄ると、そこに本日の参加者の関心事や知りたいことが大きく浮かび上がった。

ここで特筆すべきはワークショップの参加者数。参加形態や時間帯を理由に参加者は少ないのではないかと当初の懸念をよそに、70数人の参加があった。

先生は30項目近い質問に回答する形で全体を総括し、参加者の問題意識に考え方を示されたが、その多くが大変示唆に富み、大いに肯けるものであった。

こうして3時間を超える講演会は無事・成功裡に終わった。なお、このような集まりが市民サイドで行われたことにも意味があるだろう。

前日帰宅難民を経験されてお疲れにもかかわらず、素晴らしい講義と総括を頂いた廣瀬先生に心から感謝したい。併せて、議会開催中にもかかわらずこの催しに参加され最後までお付き合い頂いた浅野、石本(民主リベラル)、桑島、高田(会派翔)、村上(公明)の議員諸氏、そして何人かの市職員の方々に敬意を表したい。

(傍聴席 阪口 記 写真：藤澤豊彦)



熱心に聴講する参加者



人口構成を説明する廣瀬先生



ワークショップで議論中の参加者

支え！ 学び！ 遊ぶ！ サークル活動レポート

水戸偕楽園観梅レポート

公園を楽しむ会 坂本眞征

公園を楽しむ会々員と関係者計 39 名は、3 月 10 日朝 8 時、快晴の所沢をバス遠足よろしく、期待を膨らませて出発。高速道をまっしぐら、順調に走ってほぼ予定どおり水戸偕楽園に到着した。

千波湖の黒鳥と白鳥が出迎える中、好文亭に入場した。芋の子を洗うような混雑に、足元と人垣を見ただけ、押されるように退場した。園の梅は満開で、一番綺麗に咲いた紅梅の色と香りを充分に満喫した。ミス偕楽園を両手に花で記念写真を撮った。

気分は上々、月の井酒造へ立ち寄った。銘酒試飲を繰返し益々上機嫌。酒と今流行りの酒粕をお土産にした後、予約の「かあちゃんの店」に月の井の銘酒とビールを持込んだ。席を待つ観光客の長蛇の列を尻目に、私達だけの特別席で、新鮮な刺身とサンマ団子のみそ

汁に舌鼓を打った。地酒も近海魚も、ここでしか味わえない美味しさに、暫し酔いしれた。帰り際、隣の大洗海鮮市場で新鮮な魚や野菜を買い、お土産にした。

笠間陶芸美術館では、高尚な美術品をサーッと鑑賞し、向かいの直売所へ直行、おしゃれな笠間焼や自然薯を買った。美味しく大変楽しく、幹事&市&ドライバーの方々に、参加者一同大感謝の満足旅でした。

なお、翌 11 日午後 2 時 46 分、東日本を襲った巨大地震と津波は、

前日の同じ時間帯に我々が訪れていた大洗海岸や笠間市も襲い、大きな被害を与えている。地震の発生が 1 日早かったら我々も被災者になっていたかも知れない、と考えると運命的なものを感じる。それにしても早い復興が望まれる。



♪ オペラを楽しむ



楽悠クラブ 甲田和巳

「らくゆうクラブというのですか？」とよく聞かれる。「いいえ、**がくゆう**と読みます」すると、「何をするサークルですか？」と聞かれる。「オペラを鑑賞するサークルです」と答える。「オペラって面白いのですか？」と殆どの人は聞く。

むずかしい質問である。面白いのか、面白くないのかは、オペラを観て一人ひとりが感じるもの。勿論、曲目やそこに出演する歌手、演出家、指揮者などによっても大きく変わる。

一つだけ云えるのは、オペラの中には名曲が数多くあること。たとえば、荒川静香のスケート曲で広く知



タンホイザーの一場面

られるようになった「誰も寝てはならぬ」は歌劇「トゥーランドット」の中の曲。トリノ・オリンピック直後は CD ショップ

からこの曲が消えたと云われるほどの人気曲であった。また、日本人に馴染みの深い「ある晴れた日に」は歌劇「蝶々夫人」、**“友よ 飲みあかそう！”**で始まる「乾杯の歌」は歌劇「椿姫」、結婚式の定番「結婚行進曲」は歌劇「ローエングリン」、甘美なメロディで知られる

「タイスの瞑想曲」は歌劇「タイス」など取り上げれば切りがない。

私は、月に数本のオペラの DVD をみる。しかし、

オペラはやはり劇場でみるに限る。B 席でも C 席でもいい。ちょっとお洒落をして、幕間には劇場ロビーで冷えたシャンパンや白ワインを飲み、少し血のめぐりが良くなった中でみるオペラは何とも楽しい。気づくと時々眠っている時もあるが、私にとっては寛ぎのひとつときである。なお、写真はドイツ・ノイシュヴァンシュタイン城の壁画を撮ったもの。



ローエングリンの一場面

《特別企画エッセイ》

今は昔のわが町所沢 長閑さと懐かしさ

所沢の食文化余話

皆さんもご存知のように、所沢は古来水利に恵まれなかったため田圃が少なく、農業の主産物は陸稲(おかほ)と小麦でした。そのような環境が「うどんと焼き団子」という食文化を育んだと言われています。

ところで、私が青少年の頃は、自宅の大広間が結婚式場であったり葬祭会場であったりと、冠婚葬祭は総て自宅で執り行われました。勿論、其処に提供されるご馳走は総てが自家製の素朴な料理で、材料も自給自足の物でした。そこには、組合の女性達が駆りだされ、割烹着姿で早朝から調理に励んだものです。

当時のご馳走と言えば、「野菜のてんぷら」「野菜の煮っころがし」「漬物」「手打ちうどん」「半殺し」?でした。当時うどんは手打ちで常食でしたから、農家のお嫁さんは、誰もがうどんを打つ事が出来たものです。

うどんの食べ方も、鶏肉・椎茸・煮干しだしと醤油ベースの付け汁で食べるのが当地流で、焼き団子と共に此の地方独特の食べ方と言われています。

また、うどんは「ツルツル」(鶴鶴)、「かめかめ」(噛め噛め=亀亀)のごろ



葵の会 中泰

合わせから、お目出度い席には欠かす事のできない料理でした。

ここで、この当時の宴席を象徴するような笑い話を皆さんに紹介し、所沢のいにしえを振り返ってみたいと思います。



「さて、宴席も進みそろそろ“おつもり(終宴)”の時間も近づいてまいりましたところで、座配(ざへい:宴席を仕切る人)が、締め括りのご飯代わりは何にしようかと思ひ迷い、賄い方に相談を仕掛けます。『あのうー、あとは“手打ち”にすっか? それとも“半殺し”か?』 さあ大変!これを襖一枚隔てて耳にした座敷にいる遠来の客人、手打ち・半殺し等とまことに物騒な言葉に真っ青になり、あたふたと逃げ帰ってしまいました。」

勿論、「半殺し」とは人を傷つけることではありません。陸稲を炊いて、軽く搗(つ)いて作った“ぼた餅・おはぎ”の事を当地ではそう呼んだのです。

心休まる事の無い現代社会を生きる私達にとっては、まことに長閑で微笑ましい時代でした。

世間話

歴史散策クラブ 大河原 功

今回は、所沢に古くから口承されてきた「世間話」について、『所沢市史・民俗篇』(平成元年編纂)から取り上げてみました。

「世間話」は日本の口承文芸の一つで、伝説や昔話と違い話者やその周辺の人々の実際の体験や見聞をもとに、その場の雰囲気に応じて自由に脚色したりして話されたもので、その内容は、キツネ・タヌキ・ムジナなど動物が人を“バカした”話や人魂の話など、不思議や怪異をテーマにしたものから、ホラ吹きやトンチモンのエピソードに至るまで多岐にわたっています。

二、三の例を紹介いたします。

「歳暮にシヤケをもらってきたが、重いので途中で降ろしたら墓場の石だ



った。」「突然背中をブツ叩かれ、“ウドン食うか”“饅頭食うか”と聞かれ、ミミズや馬糞を食わされた。」など、キツネにだまされた話。

「人魂は、夜、人間が死ぬ前に家からお寺に飛んでいくつちゆうト。だから、そんなことがあると“今夜人魂飛んだゾー、誰か死ぬんでねエか”と皆で言い合った。」という、人魂の話、など。

クラブのメンバーが集まった際、郷里に伝わる話を聴いてみると、各地に似たような話が多いことが分かりました。

かつては、これらの話を雨の日や雪の日、また、夜に一家で囲炉裏を囲んだときや夜なべのとき、あるいは仕事の合間のお茶の時間などに話されていました。子供たちも親から教えてもらったり、大人同士の話をそばで聞いたりして伝承されてきました。

「世間話」は庶民の心の「ふるさと」といっても過言ではないでしょう。

サークル活動計画

興味ある活動に、皆さんも参加してみませんか！

アジア研究会(小椋雄二 2921-7739)

4月11日(月)定例会(3月中止分を繰り延べ)

中央公民館8・9号室13時30分～16時

講演「たった13日間のインド旅行」村上紀子氏

5月定例会の日時場所等詳細は未定

傍聴席(高垣輝雄 2926-7164)

4月18日(月)15時～定例会 新所沢コミセン別館・3月議会の要点と6月議会の課題・広報「ところざわ」を読んで・ブログ「傍聴席」情報

・5/7/9月定例会の進め方

楽座クラブ(甲田和巳 事前連絡は不要)

4月12日(火)13:15～(場)中央公民館8・9号室

歌劇「タンホイザー」DVD鑑賞

5月11日(水)13:15～(場)中央公民館8・9号室

映画「カヤン生誕100年記念ドキュメンタリー」DVD鑑賞

地球環境に学ぶ(塚本二郎 2942-3117)

4月19日(火)15時～新所沢コミセン別館5号室

定例会 ・5月講演会の準備作業

・各自勉強の成果発表

5月17日(火)定例会の予定

地域の自然を考える会(前岳良子 2928-7334)

4月16日(土)糞谷の湿地での田圃体験

AM8:30 現地集合

4月26日(火)春の野花観察会

詳細については追って連絡

公園を楽しむ会(竹内隆造 2922-3711)

3月24日の六義園は、東日本大震災で中止しましたが、被災者を励ます意味からも活動します。

4月28日(木)野川公園・三鷹天文台見学

9時45分武蔵境駅集合、皆さん参加下さい。

地域の自然(加茂恵三 2944-6554)

4月9日(土)植生調査と総会 早大9:00～12:00

4月26日(土)循環型農業の実践の打ち合わせ

候補地の選定 早大9:00～12:30

ダースの会(斉藤昌弘 2998-0406)

4月7日(水)第四回定期総会

4月20日(水)実の山ハイキング

5月6日(木)定例会・学習会歌舞伎DVD鑑賞

5月18日(水)新緑の散策ハイク

所沢の自然と農業(渡部昇 2949-9432)

4月12日(火)定例会

4月14日(木)三宮研究会参加

5月10日(火)定例会

毎週(火、金)地元産有機野菜直売支援

歴史散策クラブ(大河原功 2943-2004)

4月23日(土)歴史探索ラリー

集合場所・時間:西武新宿線久米川駅南口・10:00

5月14日(土)島山重忠の城跡跡、県立歴史資料館訪問

集合場所・時間:西武線本川越駅前・9:30

ドラマティック・カンパニー(八木 2995-0148)

「マクベス」を読み進めます。

定例活動日=4月2日(土)、4月16日(土)

時間=10:00～12:00

場所=新所沢コミュニティセンター別館

葵の会(池田新八郎 2940-0711)

4月14日(木)定例会13時30分～16時

場所:新所沢コミセン別館6号

テーマ:源氏物語 桐壺の巻—更衣の里—

(3月予定を繰り延べ)

野老澤の歴史を楽しむ会(嶋崎 2948-7331)

4月7日(木)狭山湖周辺歴史・桜(詳細別途)

4月18日(月)新光寺(馬のまち・観音まつり等)

集合・所沢駅2階改札前・10:30(詳細別途)

5月1日(日)多聞院(寅まつり牡丹)多福寺等

北欧の会(樋口俊夫 090-6483-7993)

4月26日(火)第22回例会 10時

スウェーデン大使館訪問

5月28日(土)第23回例会 13時20分

場所 新所沢コミセン別館

音楽連・市民大学派(若山昭 2922-1494)

福島第一原発ではまだ決死の作業が継続されており、東日本大震災の終息宣言が出るまでは当分の間活動は中止。

各サークルで議論を!

「我々も東日本大震災被災者を支援しよう!」

去る3月24日、新所沢コミュニティセンターで開かれた「ところざわ倶楽部第4期3月臨時理事会」において、「東関東東巨大地震の被災にところざわ倶楽部として何が出来るか」について活発な意見交換が行われました。

以下、その結果についてご報告いたします。

なお、会員各位の中には、既に行動を開始されている方も大勢いると思います。また、サークルとしての支援活動を検討中のサークルもあるのではないかと思います。そのような中、他のサークルにも呼びかけて実行した方がより円滑かつ効果的に実施できる支援、あるいは倶楽部全体で取り組む必要がある支援について、ご意見・ご提案がありましたら是非お知らせ戴きたいと思ひます。 副会長・総務部長 海老沢愛之助

「東日本大震災の被災者に対するところざわ倶楽部としての支援」

1 支援活動の前提

現地に赴いて行う支援活動は、自活能力を持って行うことが前提とされているので、倶楽部会員の年齢等を考慮して活動の対象とせず、所沢を拠点に行う支援活動に限定する。

2 ボランティア活動について

(1) 所沢市が被災者の避難受け入れを行う場合等に際し、会員に呼びかけて必要なボランティア活動を行う。

そのため、市と調整し、事前に倶楽部として登録しておく。

(2) 各自が出来ると思える内容を、サークル単位で把握し、それを倶楽部として取りまとめておき、市の要請に即応できる態勢を作る。

(例) ・ 支援品の仕分け

- ・ 話し相手
- ・ 食事の用意

・ 慰問的なものの提供 (音楽会等)

・ 看護師、保育士など専門職OB/OG

(3) 各サークルの意見集約期限: 4月11日(次回理事会)までを目標とする。

無理な場合は5月理事会(5月9日)までに取りまとめて戴く。

(4) その他

- ・ 各サークルの意見を確認後、所沢市に対して我々の意思を書類にして提出
- ・ ホームページに掲載
- ・ 社会福祉協議会への登録

3 義援金募金活動について

(1) サークル単位で集める (当然無記名)

(2) 会計 渡辺(誠)・中島氏の所へ集め、一括して日赤等に振り込む。

(3) ところざわ倶楽部名金額等明示される所が良い(未確定)

《一寸庵閑話》

ケン・シェクスピア

▼ やはり寺田寅彦が言うように『天災は忘れた頃にやってきました。』

巨大地震、巨大津波そして原発事故。『ミゾウウの国難だ』とあの人は・・・。

津波TSUNAMIは国際語です。1946年アリシャン沖地震の津波がハワイ島を襲い、在住日本人移民が『TSUNAMIだ!』と叫んだことがキッカケだとか。

▼ 原発事故は東電のリスクマネジメント(RM)の不備で、予備燃料の重油を手配できず燃料切れを起こしてしまったことが原因でした。RMの要諦は悲観的に予測し楽観的に対応することです。われわれは逆にやってしまいがちなのですが。

顔を出そうとしなかった社長、立ったまま『すみ

ません』と、わずか5分で現場から去った副社長。情けない人間です。天皇皇后両陛下は被災者の目線で膝をついてしっかり話されますもの。

いま沈黙する小沢一郎。そんな男だったのでしょうか・・・。

▼ 1週間ほど福岡へ滞在して『避難生活』を体験しました。食パンがあり、計画停電もない『平穏な暮らし』がありました。『安心・安全』が生きることのまさに原点であることを改めて思いました。

温泉につかり美味しい寿司を食べ、旨い酒を呑み、美しい海を眺めながら『有り難い』と思ひました。

▼ 買占めはやるけど略奪、強盗などしない日本人を諸外国が賞賛しています。

新渡戸稲造の『武士道』の一端でしょうか。『仁義礼智信勇』そして『絆』などを思いながら『がんばれニッポン!』と。 YES, WE CAN